

日程	平成 22 年 2 月 24 日 14:00～15:00
訪問先	農事組合法人ねぎぼ～ず
担当者	三重中央開発株式会社 事業部 地域開発・農業振興グループ 担当部長 森田氏 農事組合法人ねぎぼ～ず サブリーダー 篠原氏
バイオマス活用取組み概要	井村屋製菓株式会社の食品系廃棄物から製造された有機肥料等を用いてたまねぎを栽培し、井村屋製菓に出荷している。

## 1. 説明内容

### 会社の概要

三重中央開発株式会社の周辺に 22ha の畑と 3ha の水田を持っている。株式会社コンポストジャパンが製造した堆肥を用いながら、たまねぎ、かぼちゃ、アスパラガス、米などを生産しており、たまねぎは井村屋製菓株式会社に出荷している。それ以外にも、三重中央開発株式会社のグループ内で販売したり、伊賀市内の給食センターに販売したりしている。

たまねぎの栽培は機械を使って効率的に行っており、1.5ha の農場を 4～6 人で管理している。

また、ねぎぼ～ずがたまねぎを集荷加工することで、地域活性化につながっている。平成 16 年度輸入急増農産物対応特別対策事業における野菜産地強化特別対策事業においてたまねぎ集出荷施設を設置した。この集出荷施設では、年間 350t のたまねぎを集荷、加工、出荷を行っている。加工工程は、乾燥、研磨、手選別、機械選別となっている。井村屋製菓株式会社には、さらに皮むきをした状態で出荷をしている。これらの機械は 1 時間当たり 1t の加工を行う能力がある。



(写真 1) 加工施設見学の様子

### 地元農家との連携

地元農家との連携も進んでいる。通常ホームセンター等では 5～6 円/本する苗を半値以下で販売し、また、農家が栽培したたまねぎは 50 円/kg で買取を行っている。1 反（約 0.1ha）でたまねぎを最大 3 万本栽培することが可能であり、すべて収穫可能と仮定すると 9t 集荷することができ、農家の収入向上及び農村と農地の活性化にもつながっている。



(写真 2) 集出荷施設の概観

保冷能力は最大で 500t であり、9ha 栽培するとこの能力を越えてしまうほどのたまねぎが生産されることになる。そこで最近では、自社で栽培するたまねぎの量は減らし、他の作物の生産にシフトしつつある。地元の農家がたまねぎを栽培する量を徐々に増やしつつあることから、集出荷施設の能力には限りがある中で、地元との連携を重要視しているためである。また、アスパラガスのような高付加価値品種を多く栽培して、収益性向上を狙う目的もある。

## 2. 所感

たまねぎの加工施設を見学するのは初めてである参加者も多く、興味深く施設を見学していた。施設の見学後には活発な質疑応答がなされ、参加者の食品リサイクルループの生産者側の立場に関する興味の高さが伺われた。また、担当者からの説明の中で、特に地域への貢献を重視している姿勢が伝わってきた。食品工場からの食品残渣由来の堆肥を用いて育てた農作物を、食品工場に出荷する食品リサイクルループは、ねぎぼ〜ずのように地域と連携した地域の輪（ループ）も作ることでさらに良いものにすることができる、と感じた。